

重度訪問介護をつかうために 3

寺本晃久

重度訪問介護の対象者拡大にむけて、大行動実行委員会＝障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動実行委員会で、各地域の支援の実情をお聞きするアンケートを始めています。

知的障害や重複で障害があって自立生活をしている人で、毎日比較的多くの介助を必要とする人（おおむね月 150 時間以上）が、どのように介助者とやりとりしながら生活をつくっているか、どんなことに困っているのか、対象拡大にあたってのご意見や課題などについて知りたいと思っています。

そんなふうには支援を受けて暮らしている人は、まだまだあまり多くはなく、おそらく全国でも数十人ではないかと思えます。そして多くの地域では、「まず目の前にいる〇〇さんの生活を支える」ということで、手づくりで生活や支援を作ってきています。

それぞれの地域や当事者・支援者のつくってきた背景や考え方はさまざまです。東京では重度の知的障害のある人が自立生活をしていることが他の地域に比べると多いですが、それでもお互いにどうやっているのか、あまり知られていないと思えます。どういう暮らしをしていて、どのように介助を受けているのか、どんな形で支援を受けているのか、などを紹介しあうことが必要だと思います。

・行動援護では介助者に2年以上の実務経験が必要ですが、自立生活の場合はむしろ障害者側が介助を利用してきた経験の方が重要だと考えます。障害の特性というよりも（だけではなく）、生きてきた背景や、暮らし方の個別性を理解しながら、介助者が障害のある〇〇さんと関係性を作っていくことによって介助が成立しているはず。

・現在の制度利用において難しいことは。単価の低さ？ 制度の複雑さ？

・行動援護や身体介護が十分に支給されている場合は、おそらく重度訪問介護になると介助料は下がる心配。単価よりも使い勝手や時間数を求めるか？

・ひとつの事業所で支援しているところ／複数の事業所で支援しているところ。その楽しさと難しさ。

などなど。

どんなふうには制度や支援を使っているか、どんなことが必要なのか、制度面で何に困っているのか、今後どんな制度であればいいか、研修はどうか、などについて全国の方々の声をお聞かせください。それらの声を集約して、厚生労働省に要望していきたいと考えています。

われこそはとご協力いただける方は pf_tokyo@yahoo.co.jp までお知らせください！

おりかえしご連絡させていただきます。もしくはうわさを聞きつけてこちらからご連絡します！

今回のアンケートだけに終わらず、今後とも各地域相互での情報交換や連携をとったり、より深く意見交換をする場をつくったり、直接お話を聴きにうかがったりして、横のつながりをつくっていきながら、制度の利用者側が使いやすい制度にして広げていきたいと思えます。